

## 第2章 愛知らしい広域景観の形成

県土の景観形成にあたっては、広域的な視点から取り組むことにより、県全体としてのまとまりができ、愛知らしい景観が生まれてきます。

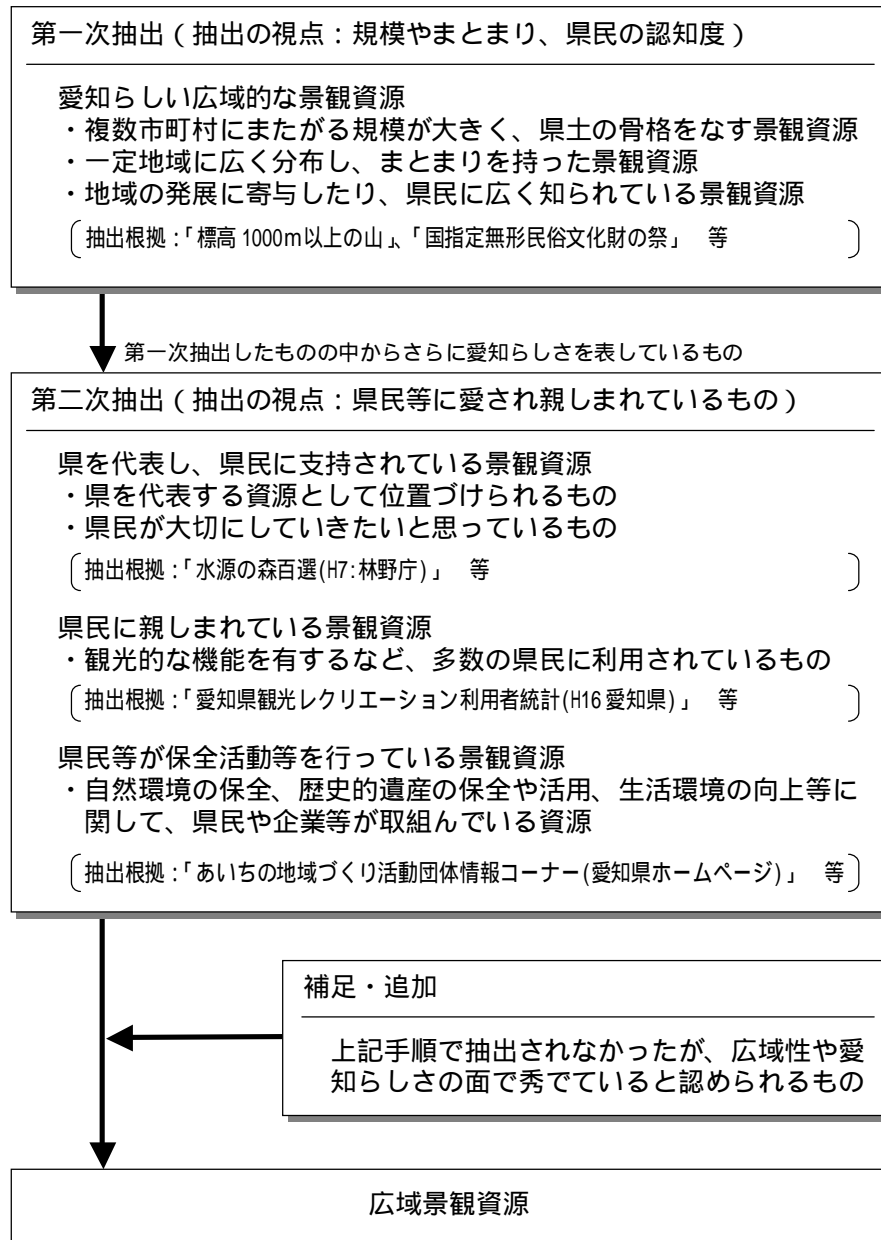
「第2章 愛知らしい広域景観の形成」では、広域的な観点から愛知らしい良好な景観を形成していくため、愛知の骨格的な景観資源や愛知らしさを象徴する景観資源を抽出して図示するとともに、それらの資源を踏まえた景観形成の方向性及び資源を活かす際の留意点を示します。

この基本計画では、「規模が大きく、県土の骨格をなす広域的な景観資源」、「規模としては小さくても一定の地域に広く分布し、まとまりを持った景観資源」、「広く県民から知られており愛知県を代表する景観資源」を基本とし、より愛知らしさを表しているものを「広域景観資源」としています。

なお、広域景観資源は、個々の資源の変貌や、新たな資源の創出・発掘により変わっていく可能性をもっています。このため、今後、その変化に応じながら見直しを行うこととしています。

## 広域景観資源の抽出の基本的な考え方

広域景観資源は、次に示す手順により抽出しています。



## 1. 多様な生物が共存する『自然景観』づくり

～ 変化に富んだ地形と生物多様性を支える自然環境を守ります～

### (1) 広域景観資源について

自然景観に関わる広域景観資源について、抽出した結果を以下に示します。



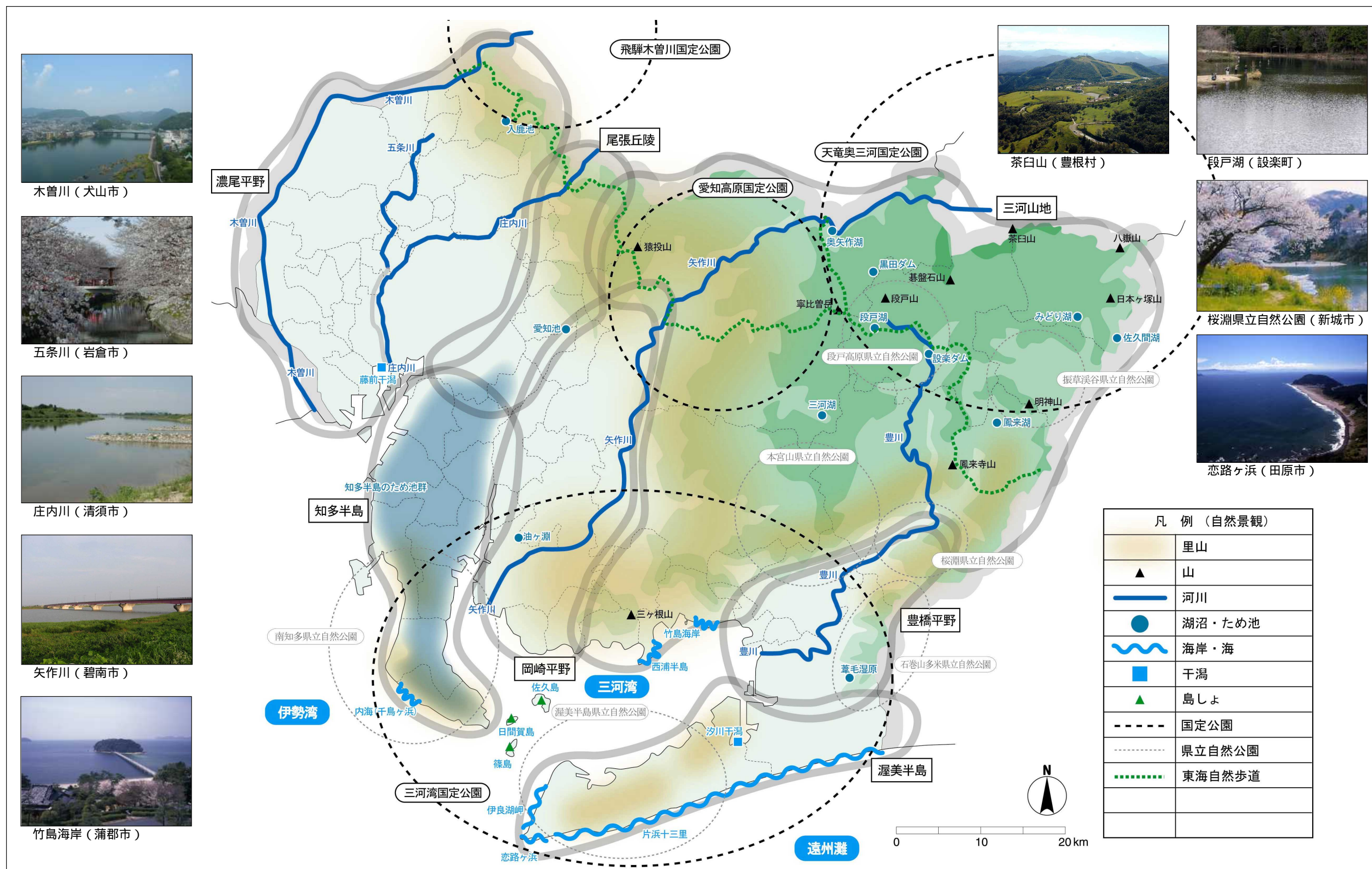
要素	自然景観に関する広域景観資源	
地形	濃尾平野	岡崎平野
	豊橋平野	尾張丘陵
	三河山地	知多半島
	渥美半島	
里山・奥山	茶臼山<豊根村>	碁盤石山<設楽町>
	段戸山<設楽町>	八嶽山<豊根村>
	寧比曾岳<豊田市>	日本ヶ塚山<豊根村>
	明神山<新城市、東栄町>	鳳来寺山<新城市>
	猿投山<豊田市、瀬戸市>	三ヶ根山<幡豆町>
	里山(二次林、雑木林)	
河川	木曽川	矢作川
	庄内川	豊川
	五条川	
湖沼・ため池	佐久間湖<豊根村>	三河湖<豊田市>
	鳳来湖<新城市>	段戸湖<設楽町>
	奥矢作湖<豊田市>	黒田ダム<豊田市>
	みどり湖<豊根村>	入鹿池<犬山市>
	愛知池<日進市、東郷町、三好町>	油ヶ淵<安城市、碧南市>
	葦毛湿原<豊橋市>	知多半島のため池群
	設楽ダム<設楽町>(建設予定)	
海・海岸・干潟	伊勢湾	三河湾
	遠州灘	片浜十三里<豊橋市、田原市>
	恋路ヶ浜<田原市>	内海(千鳥ヶ浜)<南知多町>
	西浦半島<蒲郡市>	伊良湖岬<田原市>
	汐川干潟<田原市、豊橋市>	藤前干潟<名古屋市>
	竹島海岸<蒲郡市>	島しょ(篠島、日間賀島、佐久島等)
自然公園	三河湾国定公園	飛騨木曽川国定公園
	天竜奥三河国定公園	愛知高原国定公園
	東海自然歩道	渥美半島県立自然公園
	南知多県立自然公園	段戸高原県立自然公園
	振草溪谷県立自然公園	本宮山県立自然公園
	桜淵県立自然公園	石巻山多米県立自然公園

なお、前頁で抽出した自然景観に関する広域景観資源の他に、富士山、御嶽山、伊吹山等の県内から遠望できる山を、本県の借景として捉えます。

図 県内から遠望できる主な山



【自然景観に関わる広域景観資源の分布】



## (2) 広域景観形成の方向性（自然）

### 広域景観資源の特徴

愛知の自然景観に関わる広域景観資源は、特に県土の骨格を形成する、変化に富んだ地形と生態系を反映した資源があげられます。

県土の北東部に広がる三河山地を屋根とし、木曾川や庄内川、矢作川、豊川等の山地から流れ出し、北東方向から南西方向に海に向かう河川が形成した3つの平野が尾張、西三河、東三河における人々の生活や産業の場の基礎となっています。また県内にあるダム湖や池の多くは、地域の生活や産業の基盤となるものとして造られた経緯があります。特に丘陵地である知多半島等に多くのため池があり、農業用として利用されてきました。これらのダム湖や池は、河川とともに本県の生活や産業を支える水資源として、歴史や文化等の他の資源とも関わりの深い景観資源であるといえます。

また、太平洋に面した渥美半島にある片浜十三里や、2つの半島の内側にある三河湾では、佐久島や日間賀島等の湾内の島しょも含めた美しい景観が見られます。

このように変化に富んだ地形とその上で育まれてきた生態系は、山、湖沼やため池、河川、海岸等における美しい景観の根幹をなしています。これらの美しい景観資源には、県民の憩いの場や観光・レクリエーションの場を提供しているものもあります。

### 広域景観資源の特徴

変化に富んだ地形とそこに広がる生態系 地域の生活・産業を育ててきた河川や湖沼・ため池 美しい海岸線を見せる知多・渥美の半島
---

### 取組みの方向性

自然景観に関わる広域景観形成においては、自然景観資源を、人間の営みによって歴史、生活、産業景観が形成される素地や背景となるものとして捉えることが重要です。そのため、多様な生物の共存が可能な環境を保全、創出することを基本として、河川、湖沼やため池等の水辺の景観、奥三河の森林や三河湾の自然景観を、人工的な景観資源との調和を図りながら保全していくことが必要です。

また、丘陵や里山を都市外縁部のグリーンベルトと位置づけて保全に努めるとともに、茶臼山や鳳来寺山等の山や、矢作川等の河川や池沼を活かして水と緑のネットワークを形成することで、心和ませるゆとりと潤いのある景観を守り育てていくことが必要です。さらに自然景観の中にある屋外広告物等を整序するなど、県民や来訪者が美しい自然景観を感じることができる環境づくりを進めることが大切です。

### 取組みの方向性

景観資源全体の素地となる多様な自然生態系の保全 水と緑のネットワークの形成による魅力ある自然景観の創出 美しい自然景観を阻害する屋外広告物等の整序
---

### 資源を活かす際の留意点

「(1)広域景観資源について」で整理した各資源の主な特徴を以下に記します。

国、県、市町村及び住民・事業者・NPO等は、相互に連携を図りつつ、各々のもつ景観資源の特徴を踏まえて景観づくりを行っていくことが必要です。

なお、自然景観に関わる広域景観資源については、生物多様性の保全や観光レクリエーションとしての活用等のほか、「歴史」「生活」「産業」の各景観資源との関わり特に留意しながら、景観形成に取り組むことが必要です。

#### 【自然景観に関わる広域景観資源の主な特徴】

景観資源名	主な特徴	
茶臼山	標高 1415m	豊根村にあり、長野県との県境に位置する愛知県の最高峰の山。県内唯一のスキー場のほか、キャンプ場、牧場などがある。周辺一帯は茶臼山高原と呼ばれ、茶臼山高原道路を利用して多くの観光客が訪れる。
碁盤石山	1189m	設楽町にある山。天気の良い日には、富士山への眺望もよく、遠望が美しい。遊歩道が整備されている。山頂には「天狗にひっくり返された碁盤」という山の名称の由来にもなっている伝説の巨石がある。
段戸山	1152m	設楽町にある山。段戸裏谷原生林は、「きららの森」として親しまれ、愛知県内で最大級の規模を誇るブナ林。国から特定植物群落に指定されている。
八獄山	1140m	豊根村にある山。山頂展望台からは佐久間ダムが一望でき、周りは静かなブナ林が楽しめる。
寧比曾岳	1121m	豊田市にある山。三河高原の高峰で山頂からの眺めが美しい。尾根には東海自然歩道が通り、山頂は恵那方面へのコースと足助から瀬戸方面へのコースとの分岐点となっている。
日本ヶ塚山	1107m	豊根村にある山。佐久間湖に深い緑を映す独立峰。登山道には、カエデ、ナラ、ブナが繁り、カモシカ・サルなど野生動物も多く自然の宝庫で、佐久間湖など素晴らしい展望が広がる。
明神山	1016m	東栄町の南西部にある山。春はシャクナゲ、ミヤマツツジが新緑に映え、秋は真紅の紅葉が全山を覆う美しい山である。頂上からは、北に赤石山脈、東に富士の霊峰、南に三河湾や浜名湖を望み、その雄大さと美しさは明神山からでなくては味わえない。
鳳来寺山	684m	新城市にある山。愛知県の県鳥であるコノハズクが棲息することで有名。鳳来寺本堂がある。車で本道付近に到達できる鳳来寺山パークウェイが整備されている。昭和45年(1970年)に、明治百年を記念して開設された愛知県民の森があり、紅葉の名所でもある。
猿投山	629m	豊田市と瀬戸市にまたがる山。愛知高原国定公園に含まれており、山頂には東海自然歩道が通っていることから、県民等によく知られている。古くから山嶽信仰・巨石信仰の場として崇められてきた。山麓には大碓命(おおすのみこと)が祭られている猿投神社がある。
三ヶ根山	320m	幡豆町にある山。山頂から望む三河湾や三ヶ根山スカイラインからの景色、特に夜景が素晴らしい。周辺はアジサイの名所としても知られ、6月から7月にかけて咲き誇るアジサイは見事である。また、山頂には、商売繁盛の観音さまとして知られている三ヶ根観音がある。

里山	里山を「標高 300m 以下で、区域のまとまりが概ね 100ha 以上ある二次林、雑木林」として定義した場合、犬山市、瀬戸市、豊田市、岡崎市から蒲郡市を結んだ丘陵地帯を中心に幅広い帯状に分布している。里山の規模は 34 市町村、面積 50,789ha に広がり、県土面積の 9.9% を占め、また県の森林面積の 22.9% に相当する。現在海上の森など里山の一部では、里山保全活動や自然観察会、探鳥会など、行政、地域や団体が活動している。
木曾川	古来よりの土砂の堆積により県土の発展基盤といえる濃尾平野を形成した重要な河川であり、県土の西辺を形成している。下流域では長らく水害に苦しんだが、電源開発、水源開発（愛知用水）により県土発展の礎としての役割を果たした。日本ラインと呼ばれる犬山市周辺や木曾三川公園など、美しい景観を生み出している。また木曾川では、340 余年の伝統を誇る犬山鶏飼が行われ、夏の風物詩として親しまれている。
矢作川	豊田市、岡崎市などを流れ、碧南市と西尾市の間で三河湾に注ぐ河川。矢作川の水は明治用水などに使われ、西三河における農業、工業の産業基盤として重要な役割を果たしている。上流から下流域まで変化に富んだ景観を呈している。水質改善や流域の森林を守る取組みなどを通じた上下流の連携も行われている。
庄内川	濃尾平野のほぼ中央を流れる河川。河口は名古屋市港区であり、伊勢湾に注いでいる。名古屋の旧市街地を洪水から守るために洗堰と呼ばれる越流堤や庄内緑地公園等の遊水地を旧市街地の反対側に整備している。都市域を流れるため水質汚濁が懸念されていたが、近年環境教育のフィールドとして活用されている。
豊川	設楽町を源流として、愛知県東部を流れる河川。河口は豊橋市に当たり、三河湾に注いでいる。全国でも屈指の清浄な水質の川であり、東三河地域における生命線ともなっている。下流の洪水防止や水不足解消のため、設楽ダム建設の計画が現在進められている。
五条川	犬山市と小牧市にまたがる八曾山を水源とし、入鹿池で水を集め、新郷瀬川と別れる。岩倉市を流れる箇所では、堤防の桜並木が美しく、日本さくら名所 100 選に選ばれている。また、付近の染色業者が、こいのぼりの染付けで用いた糊を川の中で落とす様子が地域の風物詩として広く親しまれている。
佐久間湖	天竜川中流部に建設された佐久間ダムのダム湖である。地域一帯は天竜奥三河国定公園に指定され、巨大なダム的人工美に、春の新緑、夏の山百合、秋の紅葉が佐久間湖面に映えて、四季を通して見事な景観をつくり出している。
三河湖	標高 500m にある羽布ダムによりできた静かな山の湖である。一周 16 km のドライブは、山と水の大自然を満喫でき、キャンプ・ボートなど四季を通じて楽しむことができる。
鳳来湖	東三河地方へ水道用水・農業用水・工業用水を供給する宇連ダムのダム湖である。昭和 33 年、高さ 65m、長さ 246m の堰堤を築き、豊川の支流宇連川の水をせき止めてつくった湖である。
段戸湖	本来は農業用のため池。段戸裏谷原生林の入口部にある。ニジマスなどが放流されておりルアー、フライ釣りを楽しむことができる。湖面に映える原生林の紅葉は見ごたえがある。
奥矢作湖	西三河の農工業用水、上水道等の多目的ダムである。湖の周囲にはドライブコースがあり、周囲の山々の緑が四季折々の変化に富んだ魅力にあふれている。
黒田ダム	標高 900m の山頂湖で、遠く木曾山脈が展望でき、周辺に放牧されている乳牛の群れがのどかに草をはむ風情など、雄大な大自然を満喫できる。
みどり湖	新豊根ダムの完成で生まれたダム湖である。湖面に映える新緑、紅葉は特に美しく、四季折々の風情をかもしている。また湖にかかる橋梁とのバランスも美しい景観を見せている。
入鹿池	犬山市の南東、飛騨木曾川国定公園内にある農業用ため池。農業用のため池としては全国屈指の大きさである。池の周囲の山々とともに風光明媚な景観を生み出している。池畔には博物館明治村があるほか、ボート、ワカサギ釣りなど観光地として多くの人が訪れる場所でもある。
愛知池	愛知用水の調整池で日進市、東郷町、三好町にまたがる位置にある。治水面の重要性とともに、親水空間としての役割も大きく、湖面は全国有数の漕艇競技場として、周辺はウォーキングやサイクリングロードなどに利用されている。



油ヶ淵	碧南市と安城市の境に位置する愛知県唯一の天然湖沼である。海水と淡水の混じりあった汽水湖である。工業排水や生活排水等により汚濁が進み、全国的に見ても汚濁した湖沼の一つとなっている。現在流域4市と県により浄化が進められるとともに、県営都市公園「油ヶ淵水辺公園」の整備が計画されている。
葦毛湿原	湿原性植物が群落する。ハイキングコースとして知られ、春からあきにかけて湿原植物の可憐な花が見られる。別名「東海のエニシ」とも言われる。
知多半島のため池群	知多半島では大川等の大きな水源がなく、稲作等の農業用水の確保に大変苦労し、多くのため池が作られた。現在では半島全体で大小あわせて約1,300か所あるといわれ、農業用水の水源であるとともに、水草が生え、コイやフナなどが生息し、野鳥が集う自然環境をつくりだしている。また、住宅地に近いため池では、周辺に散歩道などを設けて親水空間として利用されているものもある。また、知多半島だけでなく、愛知県には、その他に西三河南部や渥美半島にも多数のため池がある。
設楽ダム(建設予定)	設楽町に位置し、東三河地方を流れる豊川の河口から約70km上流の設楽町地内に建設が予定されている多目的ダムである。
伊勢湾	中部地方の南部に位置する湾。志摩半島の大王崎と渥美半島の伊良湖岬を結ぶ線より北側の海域から、三河湾を除いた海域。水域面積が日本最大の湾で、三重県、愛知県に面する。名古屋港などの貿易港があり、沿岸には多くのコンビナート、産業用倉庫が立ち並び、名古屋圏にとって物資の海上輸送には欠かせなく、海の玄関口の役割を果たしている。
三河湾	渥美半島と知多半島に挟まれている。伊勢湾に接続しており、外洋には直接接していない。水深は全体的に浅く、閉鎖的水域であるため、最近では海洋汚染が懸念されている。知多半島南端、日間賀島、渥美半島西端の3点を順に結んだ直線と陸岸とによって囲まれた海域で、平均水深は比較的浅く、約9.2mとなっている。
遠州灘	フィリピン海(北西太平洋)のうち、静岡県御前崎から愛知県伊良湖岬までの範囲に広がる部分の呼称。九州東方から四国南方を通ってきた黒潮が大きく蛇行し、強い流れとなって遠州灘沖を通過する。岸には砂浜が広がり、アカウミガメが産卵に訪れる場所として有名である。また、サーフィンやボディボードなど、マリンスポーツのメッカとしても知られている。
片浜十三里～恋路ヶ浜～伊良湖岬	三河湾国定公園に指定されている渥美半島の太平洋岸は、海食崖と砂浜が連続し続く片浜十三里、伊良湖岬や日出の石門など荒々しい岩礁地形と押し寄せる太平洋の荒波とが織りなす雄大な景観を形成している。また、半島先端の伊良湖岬は、サンバの渡りでも知られているほか、島崎藤村の「椰子の実」の詩で有名な恋路ヶ浜や日出(ひい)の石門が海岸景観を特色付けている。
内海(千鳥ヶ浜)	知多半島の西岸に位置した2kmほどの海岸で、細かい砂を有した海岸の美しさでは東海随一と言われる。夏になると、県内外からの大勢の観光客が押し寄せ、賑わいを見せる海水浴場となる。
西浦半島	三河湾に突出した西浦半島は、古くは万葉の地として歌垣にも選ばれており、現在でも万葉の小径などが観光資源となっている。
伊良湖岬	渥美半島の先端で、旧陸軍が大砲試射場として利用していたところである。航海の難所として有名だが、磯釣りの名所でもある。白い伊良湖岬灯台があり、三島由紀夫の「潮騒」の舞台である神島が眼前に見られ、美しい岬である。
汐川干潟	三河湾の最深部、渥美半島の付け根の豊橋市と田原市に位置する面積280haの干潟である。満潮時にはほぼ全域が海になり、干潮時には溲筋(みおすじ)を除きほぼ全域が干潟になる。約250種の鳥類や干潟特有の動植物が見られる自然の宝庫である。
藤前干潟	名古屋港西南の臨海工業地域の中にある干潟である。面積は約250haで、伊勢湾に残る最後の干潟である。国設鳥獣保護区特別保護地区に指定されているほか、ラムサール条約にも登録され、日本有数の渡り鳥の飛来地である。
竹島海岸	蒲郡市に位置している。国天然記念物「竹島」が浮かび延長387mの橋で結ばれたその景観は素晴らしい。春には潮干狩りができ、親子連れなどの多くの観光客が訪れる。

島しょ (篠島、日間賀島、佐久島等)	代表的な島として愛知三島と呼ばれる篠島、日間賀島、佐久島がある。篠島は大小十数の島々からなっていることから昔より「東海の松島」と言われる。また日間賀島は、島の北側は漁港、東西側は海水浴場、南側は篠島や渥美半島を眺む素晴らしい景観が広がっている。さらに佐久島は愛知県下で最大の島で、漁業と観光レジャーが主な産業であり、近年、島の自然や伝統とアートとの出会いによって島の活性化を目指すという「佐久島アートプラン 21」が始まった。
国定公園	奥三河、三河湾沿岸を中心に 4 つの国定公園が指定されており、風光明媚な景観が見られる。(天竜奥三河国定公園、飛騨木曾川国定公園、愛知高原国定公園、三河湾国定公園)
東海自然歩道	東海自然歩道は、東京の「明治の森高尾国定公園」から大阪の「明治の森箕面国定公園」までを結ぶ長距離自然歩道である。その内、県内及びその周辺では、天竜奥三河、愛知高原、飛騨木曾川の 3 つの国定公園を通過する本線コース、恵那コース及び自然観察路からなる延べ 211 km がある。本線コースは、静岡県境の新城市「鷹ノ巣山」から岐阜県境の犬山市「ライン大橋」まで。恵那コースは、豊田市「寧比首岳」から岐阜県内を通り、犬山市「善師野」で再び本線に結ばれている。また、自然観察路は、鳳来寺山、段戸裏谷、猿投山に設けられている。これらのコース内には、仏法僧で有名な「鳳来寺山」、愛知県最大の原生林「段戸裏谷」、東海一の紅葉の名所「香嵐渓」、日本有数の人造湖「入鹿池」、現存する城としては日本最古の「犬山城」などの見所がある。
県立自然公園	東三河や知多半島、渥美半島を中心に 7 つの県立自然公園が指定されており、風光明媚な景観が見られる。(渥美半島県立自然公園、南知多県立自然公園、段戸高原県立自然公園、振草溪谷県立自然公園、本宮山県立自然公園、桜淵県立自然公園、石巻山多米県立自然公園)

## 2. 武家文化や近代化遺産が伝える『歴史景観』づくり

～ 先人達が築いてきた尾張や三河の歴史・文化を伝え残します～

### (1) 広域景観資源について

歴史景観に関わる広域景観資源について、抽出した結果を以下に示します。

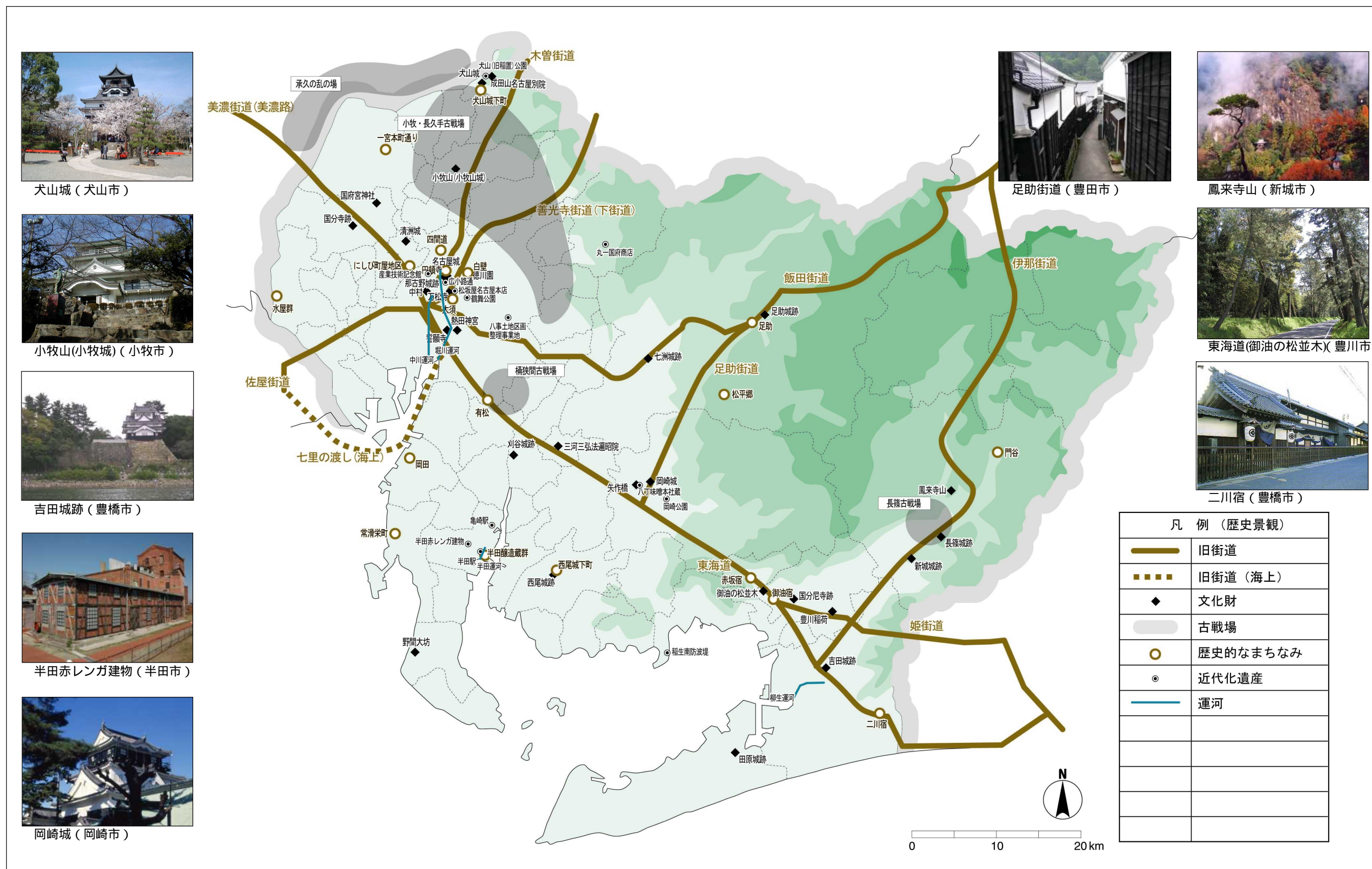


要素	歴史景観に関する広域景観資源	
旧街道	東海道（御油の松並木）	美濃街道
	足助街道	伊那街道
	佐屋街道	木曾街道
	善光寺街道	飯田街道
	姫街道	
歴史的なまちなみ	有松<名古屋市>	四間道<名古屋市>
	白壁<名古屋市>	常滑栄町<常滑市>
	足助<豊田市>	犬山城下町<犬山市>
	西尾城下町<西尾市>	御油宿<豊川市>
	二川宿<豊橋市>	赤坂宿<音羽町>
	大須<名古屋市>	円頓寺<名古屋市>
	一宮本町通り<一宮市>	門谷<新城市>
	松平郷<豊田市>	にしび町屋地区<清須市>
	岡田<知多市>	半田醸造蔵群<半田市>
	水屋群<愛西市>	
文化財 (三英傑と源頼朝ゆかりの場所等を含む)	名古屋城<名古屋市>	小牧山（小牧城）<小牧市>
	犬山城<犬山市>	岡崎城<岡崎市>
	那古野城跡<名古屋市>	刈谷城跡<刈谷市>
	足助城跡<豊田市>	長篠城跡<新城市>
	新城城跡<新城市>	吉田城跡<豊橋市>
	七州城跡<豊田市>	清洲城<清須市>
	田原城跡<田原市>	西尾城跡<西尾市>
	桶狭間古戦場<豊明市>	小牧・長久手古戦場<長久手町>
	長篠古戦場<新城市>	承久の乱の場<江南市、犬山市他>
	熱田神宮<名古屋市>	鳳来寺山<新城市>
	万松寺<名古屋市>	中村(秀吉の出生地)<名古屋市>
	誓願寺(頼朝の出生地)<名古屋市>	野間大坊(頼朝の父が没した地)<南知多市>
	矢作橋<岡崎市>	徳川園<名古屋市>
	豊川稲荷<豊川市>	三河三弘法遍昭院<知立市>
	成田山名古屋別院<犬山市>	国府宮神社<稲沢市>
	国分尼寺跡<豊川市>	国分寺跡<稲沢市>

近代化遺産等	八事土地区画整理事業地<名古屋市>	鶴舞公園<名古屋市>
	岡崎公園<岡崎市>	犬山(旧稲置)公園<犬山市>
	稲生南防波堤<蒲都市>	広小路通<名古屋市>
	亀崎駅<半田市>	半田駅<半田市>
	丸一国府商店<瀬戸市>	松坂屋名古屋本店<名古屋市>
	産業技術記念館<名古屋市>	半田赤レンガ建物<半田市>
	八丁味噌本社蔵<岡崎市>	堀川運河<名古屋市>
	中川運河<名古屋市>	半田運河<半田市>
	柳生運河<豊橋市>	



【歴史景観に関わる広域景観資源の分布】



犬山城（犬山市）



小牧山(小牧城)（小牧市）



吉田城跡（豊橋市）



半田赤レンガ建物（半田市）



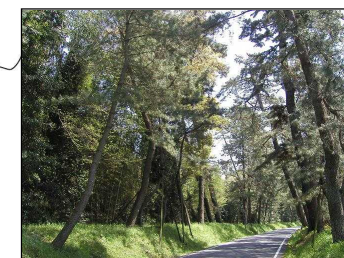
岡崎城（岡崎市）



足助街道（豊田市）



鳳来寺山（新城市）



東海道(御油の松並木)（豊川市）



二川宿（豊橋市）

## (2) 広域景観形成の方向性（歴史）

### 広域景観資源における特徴

愛知の歴史景観に関わる広域景観資源には、武家文化と関わりの深い、戦国～江戸時代における県土の発展に大きく関わったものが多くあげられます。

江戸時代、日本の大動脈であった東海道を軸とし、美濃街道や伊那街道等、中山道につながる複数の脇街道がネットワークを形成し、かつて栄えた赤坂や有松等の東海道の宿場町では、現在でも往時の面影が色濃く残されています。他にも、飯田街道と足助街道の分岐点であった足助や城下町として栄えた犬山や西尾では、歴史的なまちなみが見られます。国宝の犬山城や熱田神宮等の文化財のほか、古くからの歴史ある社寺が多いことも本県の特徴であり、桶狭間古戦場や小牧・長久手古戦場等、日本の歴史の転換点となった合戦の舞台も複数あるなど、歴史上重要な役割を担った地域であることを示しています。また歴史的な経緯を持つ鉄道駅等、近代産業の発展に貢献した近代化遺産も各所に点在し、「モノづくり愛知」としての歴史を物語っています。

### 広域景観資源における特徴

武家文化と関わりの深い、多くの城下町、合戦場等  
交通の要衝としての記憶をとどめる街道と宿場町等の町並み  
近代産業の発展の歴史を物語る近代化遺産

### 取組みの方向性

歴史景観に関わる広域景観形成にあたっては、地域のなりたちの礎となっている歴史景観資源を地域の個性が映し出された背景として捉えることが重要です。このため、現存する文化財や歴史的な遺産、伝統文化やまちなみ等については、失われることのないよう、正しい形で保全する取組みを進めることが必要です。

また、武家文化に関わるもので、歴史上重要な出来事や場所を想起させる要素でありながら、現在失われつつあるものについては、これを愛知らしさを特徴づけるものとして積極的に発掘し、その重要性を広めます。また小規模な資源であるものの、物語性を見出して複数の資源をまとまりで捉えることのできるものは、愛知県を特徴づける新たな歴史景観資源として位置づけ、後世に伝える取組みを進めます。

近代化遺産については、「モノづくり愛知」の発展の歴史を特徴づけるものとして、時代背景や物語性、産業との関わりから、それぞれの資源の重要性に光を当てて保全への取組みを促すことで、長年にわたって培われた愛知の風格を将来に向けて継承していくことが望まれます。

### 取組みの方向性

地域の個性を映し出す背景となる歴史景観の保全  
武家文化に関わる歴史景観資源の発掘と再生  
近代化遺産の保全を通じた風格ある景観の継承

### 資源を活かす際の留意点

「(1)広域景観資源について」で整理した各資源の主な特徴を以下に記します。

国、県、市町村及び住民・事業者・NPO等は、相互に連携を図りつつ、各々のもつ景観資源の特徴を踏まえて景観づくりを行っていくことが必要です。

なお、歴史景観に関わる広域景観資源については、資源が有する歴史的な物語に光を当て、資源間の有機的なつながりに留意しながら、景観形成に取り組むことが必要です。

#### 【歴史景観に関わる広域景観資源の主な特徴】

景観資源名	主な特徴
東海道 (御油の松並木)	律令時代には京都から東国につながる街道であったが、江戸時代になって五街道の一つに位置づけられ、京と江戸を結び、日本の中で最も重要な街道となった。53の宿駅が整備され、そのうち県内には9つが位置し、宿場町がそれぞれ形成された。しかし、現在地域の発展、近代化の中で町並みの多くは失われつつある。そうした中で、御油宿と赤坂宿の間にある約600m・300本の御油の松並木が往時の面影の残している。江戸時代に街道を往来する旅人の夏の暑さをしのぎ、冬の防風の為に、徳川家康が植えさせといわれる。
美濃街道	江戸時代には幕府の道中奉行の管轄下にあった主要街道のひとつで、東海道の熱田宿から、濃尾平野を縦断して中山道の垂井宿を結ぶ全長約58kmの脇街道であった。県内の宿駅としては清洲(清須市)、稲葉(稲沢市)、萩原(一宮市)、起(一宮市)があった。
足助街道	岡崎と足助を結び、飯田街道に合流する街道で、「塩の道」とも呼ばれる。渥美湾などで製塩された塩を信州方面に運ぶための道として重要な役割を担っており、足助は合流地点として大いに栄えた。
伊那街道	三州街道とも呼ばれ、中山道の脇往還とし、中馬で荷駄を運ぶ通商の道として、江戸時代は盛んに利用された道。中山道塩尻宿から分岐し伊那谷を下り柚路峠(そまじとうげ)を経て三河足助を経由し岡崎に至る。
佐屋街道	東海道の脇街道で、宮宿から岩塚・万場・神守・佐屋の四宿を経て、佐屋からは川を下り、桑名宿へと至っている。宮から七里の渡しを経て桑名までの海路を避けて、陸路として開かれた。
木曾街道	江戸時代に、名古屋から小牧を通り中山道につながる脇街道として開かれた。犬山街道、稲置街道、上街道とも呼ばれる。
善光寺街道	木曾街道と同様に中山道を結ぶ脇街道として開かれた。名古屋より勝川、内津、池田を経て、中山道大井宿に至る街道で、下街道とも呼ばれる
飯田街道	名古屋と信州飯田を結んでいた街道。信州と三河の間の交易に利用された街道で、三州街道とも呼ばれる。現在の国道153号(愛知県名古屋市～豊田市～長野県飯田市～伊那市～塩尻市)は、ほぼ旧道を走る。
姫街道	東海道見附宿(静岡県磐田市)と御油宿を結ぶ東海道の脇街道。東海道新居関所の厳しい取締まりを嫌った女性が多く利用したためこの名で呼ばれる。
有松	有松は東海道五十三次の知立と鳴海の宿の間の合宿(あいのしゅく)として慶長13年(1608年)に有松絞りの開祖・竹田庄九郎ら8名がこの地に移住し、絞りの町として栄えた。今は当時をしのばせる江戸末期の土蔵造りの町屋が10数軒残り、名古屋市有松町町並み保存地区(昭和59年3月指定)に指定されている。
四間道	名古屋駅の近くを流れる堀川沿いに残る古い町並み。熱田の湊と名古屋城を結ぶ堀川沿いには、米穀、塩、味噌、酒、薪炭などを城下町へ供給する商家が軒を連ねていた。現在では、屋根神様や子守地蔵尊など下町情緒が残る貴重な地域として残っており、昭和61年(1986年)、名古屋市の「町並み保存地区」にも指定されている。



白壁	名古屋城南東に位置する江戸時代の尾張藩中級武家屋敷地。明治維新後は名古屋政財界人の住居地として、歴史的価値のある近代建築物が集積した、閑静な住宅地となっている。現在も屋敷群の土塀や門・町割などが残されていて、都心近くながら「町並み保存地区」に指定されている。
常滑栄町	日本六古窯の一つで古くから焼物の町として知られている。常滑焼は平安時代の末期に始まり、現代まで1000年以上の長い年月を経て現代に受け継がれている。今では工場や煙突の数も少なくなったが、やきものを敷き詰めた坂道、土管や瓶を積み上げた擁壁など、やきものの街ならではの景観が各所に見られる。
足助	岡崎方面から信州方面に通じる中馬街道の宿場町として栄えた所であり、足助川に沿って古い町並みが残る現在見られる古い町並みの多くは、文化・文政期(一九世紀始め)に建築されたもの。通りに面して白壁の造り、奥に土蔵が数棟連なっている重厚な景観が見られる。
犬山城下町	国宝犬山城の内堀(城郭)と外堀により構成されている城下町地区は、町割をはじめ文化的に価値の高い建物や木戸跡などの史跡が今もお数多く残っている。毎年多くの観光客で賑わう犬山祭の際には勇壮な車山(やま)が町内を曳(ひ)きまわされるなど、歴史や文化を象徴する地区として現在に至っている。
西尾城下町	かつては六万石の城下町で、商業のまちとしても栄えた。城は明治で廃城となり、遺構もほとんど残っていない。歴史的な町並みや建築物、多くの神社仏閣、長い伝統をもつ芸能や祭りなどが現在まで伝えられ、「三河の小京都」と呼ばれる。西尾市歴史公園に再建された本丸丑寅櫓(うしとらやぐら)や二の丸の表門・鑰石門(ちゅうじゃくもん)がある。
御油宿	豊川市に位置する、東海道の35番目の宿場であった。御油・赤坂間の旧東海道沿いに天然記念物に指定されている松並木がある。松並木は現在も保存会により大切に守られており、左右に600mほど続く松並木は、江戸時代の街道の雰囲気を楽しむことができる。
二川宿	豊橋市に位置する、東海道の33番目の宿場であった。現在でも江戸時代の町割りほぼそのままの状態に残り、東海道筋では貴重な本陣と旅籠屋の遺構が残り、「本陣」と「旅籠屋」を同時に見ることができる二川宿本陣資料館として公開している。
赤坂宿	音羽町に位置する、東海道の江戸品川宿から数えて36番目の宿場。東海道筋で唯一営業を続けている旅籠、「大橋屋」がある。創業は慶安2年(1649年)、現存の建物は正徳6年(1716年)の建築と伝えられる。周辺の東海道筋の中では比較的町並みが残されており、旧東海道の紹介に使われることも多い。
大須	名古屋市の中心部に位置する商店街。大須観音や万松寺などの門前町として形成された。現在は、電気街としても有名で、広大なアーケード商店街が広がり、老若男女・国籍・人種も様々で県外から買い物に訪れる人も少なくない活気のある地区となっている。
円頓寺	江戸時代に名古屋の城下町が整備された時、円頓寺の門前町として形成された名古屋市で最も古い商店街。明治20年代以降は名古屋市西部一帯の中心的盛り場となった。現在でも界隈には昔懐かしい建物や旧跡が数多く残っている。
一宮本町通り	一宮市の中心に位置する商店街。真清田神社の門前町として形成され、アーケードのある商店街であり一宮七夕まつりが行われる。
門谷	名勝天然記念物鳳来寺山の門前町である門谷地区では、十二支像の道標設置などの表参道の整備をはじめ、歴史的俳人歌人の案内板、投俳箱の設置、町花「ホソバシヤクナゲ」の植樹や街路灯の設置などが地元住民の活動により行われている。
松平郷	徳川家のルーツである松平氏の発祥の地。巴川(足助川)東岸の山地の中の小集落で、現在の豊田市松平町にあたる。一帯は松平氏遺跡として国の史跡に指定されており、松平東照宮をはじめ、初代親氏をまつる高月院、松平城址など松平氏ゆかりの史跡が多く残っている。
にしび町屋地区	西枇杷島の町屋地区は、東海道の脇街道としての「美濃路」が町を通り、徳川家康の命により青物市場「枇杷島市場」が開設されたことをきっかけに繁栄したまちで、昭和30年代に市場が移転したことにより衰退したものの、現在でも町屋が軒を連ね、歴史・文化・伝統が今でも色濃く残る地区である。

岡田	知多市岡田という狭い地域に、木綿業で栄えた富の蓄積によって建てられた蔵が集中している。91棟ある蔵のうち、1棟を除いて戦前の建物で、中には江戸時代のものも11棟ある。
半田醸造蔵群	早くから開けた海運により知多半島の産物である酒や酢、木綿などが江戸、大阪などに運ばれていた。その醸造業に代表される黒板囲いの蔵が半田運河沿いに今も現役で活躍している。
水屋群	輪中特有の建物で、水害時、母屋が浸水した時の避難所として設けられたものである。「水屋」には、米や味噌が蓄えられ、また、屋根裏には常備した「上げ舟」がある。石垣の上に設けられた黒い塀と瓦屋根の外観が特徴的である。
名古屋城	徳川家康が、東海道の要所、西方への備えとして築城を命じ、清須（現清須市）から城下町ごと移転する形で（清須越し）、慶長17年（1612年）に築城。明治維新まで、徳川御三家の筆頭尾張家の居城として栄えた。昭和20年（1945年）、名古屋空襲の際、建物のほとんどを焼失。昭和34年（1959年）に大小天守閣と正門が、ほぼ昔どおりの外観で再建された。
小牧山(小牧城)	小牧市のほぼ中央、市街地の西に位置する標高85.9mの小山で、頂上から尾張平野を見渡せる。戦国時代に織田信長が城を築いた。その後、小牧・長久手の合戦では、徳川家康の主陣地となり、豊臣秀吉の軍勢と対峙した。昭和2年に国の史跡に指定。現在、山頂には通称「小牧城」の小牧市歴史館が建てられ、山全体は史跡公園、桜の名所として親しまれている。
犬山城	木曾川左岸の標高約40mの崖の上にそびえ、天守は全国の現存するものなかで最も古いとされている。別名を白帝城という。室町時代に織田家がこの地に城を建てたのが最初だが、江戸時代以降は成瀬家の居城となった。明治以降は、成瀬家が所有し、日本で唯一の個人所有の城であったが、平成16年（2004年）4月から財団法人「犬山城白帝文庫」に移管されている。国宝に指定されている。
岡崎城	江戸幕府を開いた徳川家康が生まれた城であり、天下統一の拠点となった地であるといえる。明治時代に入って、城郭の大部分は取り壊されてしまい、堀と石垣のみが残されていたが、昭和34年（1959年）に、ほぼ昔どおりの外観の天守閣が復元された。
那古野城跡	天文3年（1534年）、織田信長が、この城で誕生したといわれている。現在の名古屋城二の丸あたりに城跡があり、遺構はなく、石碑が建っている。
刈谷城跡	天文2年（1533年）水野氏が築いた城で、明治の廃藩置県まで刈谷藩の中心であった。今は総合公園として整備され、日本庭園と十朋亭との調和が美しい。春は桜まつりが開催され多くの市民でにぎわう。
足助城跡	足助鈴木氏が在城し、周辺の名主土豪を支配下に治めていた。の時期には不明である。再建された足助城は、16世紀後半の様式である。
長篠城跡	長篠城は永正5年（1508年）、菅沼元成によって築城された。大規模な空堀と土塁が残っており、本丸南側には遺構がよく残っているが、北側のほとんどは埋没、破壊され、現在は畑地や宅地などになっている。
新城城跡	天正2年（1575年）、長篠合戦後に奥平信昌によって築城された。新城城の跡地には新城小学校と市役所が建てられており、新城小学校のグラウンドの西側には土塁を利用した花壇や遊び場が造られている。
吉田城跡	永正2年（1505年）に築城された今橋城が後に改称されたもので、現在は昭和29年に復興された隅櫓が豊川のほとりに建っている。豊橋公園内にあり、美術博物館、三の丸会館とともに多くの市民に親しまれている。
七州城跡	挙母藩二代藩主内藤学文（さとふみ）は、矢作川に近い低地に桜城（挙母城）を造っていたが、度重なる洪水のため築城をあきらめ、現在の地に安永9年（1780年）に築城を開始し6年余りで完成した。七州城は「三河国」「尾張国」「美濃国」「信濃国」「遠江国」「伊勢国」「近江国」の七州が見える高台に建っていることから名付けられた。

清洲城	室町時代から尾張国の守護の居城であり、長く尾張の中心であった。織田信長が約10年間居城とした城で、信長が亡くなった後、秀吉が実権を握る契機となった「清洲会議」が開かれた場所でもある。江戸時代に入って「清洲越し」によって城下町ごと名古屋に移転した。現在立てられている模擬天主は平成元年に再建されたもので、かつての場所とはやや異なる位置にあり、資料が残っていないため外観も想定により造られたもの。
田原城跡	文明12年(1480年)頃、戸田宗光によって築城された。周りを海に囲まれた堅固な城で、湾の形が巴形になっていたところから、「巴江城」とも呼ばれていた。
西尾城跡	鶴城とも呼ばれ、承久3年(1221年)頃、足利義氏が築城したと伝えられる。城下は松平六万石の城下町として栄えた。城跡一帯が西尾市歴史公園として整備され、平成8年4月、本丸丑寅櫓(うしとらやぐら)と鑰石門(ちゅうじゃくもん)が復元された。
桶狭間古戦場	桶狭間の戦いの古戦場を史跡公園として整備した場所が豊明市にある。この場所は、「国指定史跡桶狭間古戦場伝説地」として、昭和12年(1937年)国指定史跡となっている。また、ここでは、古くから毎年6月に鎧武者の格好で当時の合戦の様相を再現して見せる行事(桶狭間古戦場祭り)が行われている。
小牧・長久手古戦場	豊臣秀吉と徳川家康が唯一対決した戦いとして知られるのが「小牧・長久手の戦い」。長久手町には、国指定史跡「長久手古戦場」があり、その周辺には古戦場公園や色金山歴史公園が整備されて、愛知を代表する歴史的な物語を継承している。
長篠古戦場	織田信長・徳川家康連合軍と武田勝頼が正面切ってぶつかった戦である。この戦に勝った信長は天下統一をほぼ確実にした。この戦の有名なところは、信長により初めて鉄砲が戦略的に用いられたことである。現地には長篠の戦いの歴史散策コースが作られており、説明板にしたがって散策できる。また付近には歴史資料館等もあり、愛知の歴史を十分に堪能できる。
承久の乱の場	鎌倉時代天皇勢力が武家から政権を取り戻そうとして起こった乱である。この乱では、木曾川をはさんで北の朝廷軍と南(犬山)の幕府軍が対峙し、木曾川を先に渡った幕府軍が勝利した。以降、明治維新まで約650年間武家政治が続いた。現在その面影は残っていないが、愛知県と岐阜県を舞台に時代の大きな流れを作った場所である。
熱田神宮	名古屋市熱田区にある神社で、祭神は熱田大神であり、三種の神器の一つである草薙剣(くさなぎのつるぎ。天叢雲剣)を神体としている。19万㎡の境内は緑に覆われ、その中に伊勢神宮にならった神明造の本宮があり、境内には、樹齢千年を超える楠の巨木がある。参拝者数も多く、年間800万~1000万人の人が訪れる。
鳳来寺山	自然資源の項参照
万松寺	織田家の菩提寺であった。信長が、父の葬儀の際、抹香を仏前に投げつけたエピソードで有名。現在は大須商店街の中心に位置し、多くの参拝客が訪れる。本堂前面には織田信長のからくり時計が設置されている。
中村	豊臣秀吉の出身地として有名で、秀吉に関する地名が多い(太閤、千成、日吉など)。豊臣秀吉を祭る豊国神社がある。本殿は質素だが、参道入口に赤い「中村の大鳥居」が聳えている。
誓願寺	現在、誓願寺が建っている場所は、はじめての武家政権(幕府)を開いた源頼朝の生誕した熱田社大宮司下屋敷があった場所である。誓願寺門前には「右大将源頼朝公誕生旧地」の標識が立ち、境内には「頼朝公産湯地」が残る。
野間大坊	平治元年(1159年)平治(へいじ)の乱に破れた源義朝(みなもとのよしとも)(源頼朝の父)は、数人の家来と共に美濃から伊勢湾に出て、知多半島沿岸から野間に落ちのびた。しかし、平氏により浴室で殺されてしまう。現在、大御堂寺(野間大坊)には義朝の墓がある。その他、近隣には義朝の首を洗ったと伝えられる「血の池」や、長田屋敷跡や湯殿跡、はりつけの松などが残る。
矢作橋	若い頃、放浪中の秀吉が野武士の頭領・蜂須賀小六と出会ったとされる橋。今後、誰のもとに仕えればよいのかと、秀吉が尋ねたところ、小六が答えた名が織田信長であった。その後、秀吉は信長に仕え、小六は秀吉の下で働いた。(当時の矢作川は架橋されておらず、二人が橋の上で出会ったのは、後世の伝説だという説もある)

徳川園	徳川園は、名古屋市東区徳川町、尾張徳川家の大曾根別邸跡地の一部である。徳川家伝来の道具類を所蔵する徳川美術館、尾張徳川家伝来の古文書を所蔵する蓬左文庫、日本庭園等が園内にあり、一体として徳川家の記憶をとどめる景観をなしている。
豊川稲荷	愛知県豊川市にある曹洞宗の円福山豊川閣妙巖寺の通称。商売繁盛の神として庶民からも信仰されており、正月から2月初旬頃までの初詣期間中は大勢の参拝客が訪れ、最寄の豊川駅から稲荷までの参道などは大いに賑わう。
三河三弘法遍昭院	知立市にあり、約1200年前弘法大師空海上人によって開創された。三弘法第一番根本霊場として当地方の弘法大師信仰の中心的存在をなす。毎月弘法大師の命日には東海地方各地から信徒が参詣に訪れる。
成田山名古屋別院	犬山市にある千葉県成田市成田の大本山成田山新勝寺の別院で、正式には大本山成田山名古屋別院大聖寺。小高い山の上に立つ朱塗りで木製の本堂が目印。境内からは広大な濃尾平野を一望できる。
国府宮神社	尾張地方の総鎮守神、農商業守護神、厄除神として広く信仰されている。奈良時代、国衙(こくが)に隣接して鎮座していたことから尾張国の総社と定められ、国司自らが祭祀を執り行う神社であった。このことから通称「国府宮」として広く知られ、また、天下の奇祭「国府宮はだか祭り」でも有名。
国分尼寺跡	天平13年(741年)、聖武天皇の詔勅によって建てられた寺。寺域は約180メートル四方で、南大門、中門、金堂、講堂を一直線に並べ、鐘楼、七重塔などを左右に配したまばゆいばかりの大伽藍であった。国の保護のもとに栄えたが、平安時代末には大方が荒廃した。現在、朱塗りの中門と回廊の一部を復元するとともに、史跡公園として整備されている。
国分寺跡	天平13年(741年)の国分寺建立の詔によって建てられた尾張の国分寺は、国府想定地とされる稲沢市松下から西へ約4kmの矢合町内の畑地にあった。東西25.6m・南北21.6mであった。国分寺旧蹟の石碑の建っている場所は、畑地の中であるが、塔の礎石はしっかりと残っている。
近代化遺産	ものづくりの拠点として発展してきた愛知県には、産業技術記念館(名古屋市)、半田赤レンガ建物(半田市)、八丁味噌本社蔵(岡崎市)、広小路(名古屋市)などの、産業・交通・土木に関する様々な建造物(各種の構築物、工作物を含む)が各地に存在している。地域の発展の歴史を後世に伝えるものとして保存が望まれているが、技術革新の中で解体・改築されてしまったものも多い。 なお、これらの詳細な資料は、「愛知の近代化遺産(愛知県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書)<H17・愛知県教育委員会>」にまとめられている。
堀川運河	慶長15年(1610年)の名古屋城築城と時を合わせ、福島正則により開削されたと伝えられている。当時は、名古屋の街の南北軸として、城や城下町への物資の運搬路、あるいは排水路などとして機能し、川沿いには、米、海産物、木材などを扱う商人が集まる名古屋経済の中心であった。
中川運河	大正時代、名古屋港が国際貿易港となるためには鉄道で運ばれた貨物を港まで運ぶ運河が必要と考えられるようになり、大正15年(1926年)に起工され、昭和5年(1930年)に竣工。名古屋港と笹島貨物駅を結び、都市の発展を支えるとともに、市中心部の排水路としても市民生活を支えてきた運河である。
半田運河	早くから開けた海運により知多半島の産物である酒や酢、木綿などが江戸、大阪などに運ばれていた。その醸造業に代表される黒板囲いの蔵が、半田運河沿いに今も現役で活躍している。
柳生運河	地域一帯が堤防決壊により毎年被害を受けていたため、それを防ぐことを目的として昭和11年(1936年)に竣工。当時は、油脂原料や石炭などの運搬に活躍していた。

### 3.心の豊かさを映し出す『生活景観』づくり

～身近な文化を守り、育て、潤いを安らぎのある生活景観を創出します～

#### (1)広域景観資源について

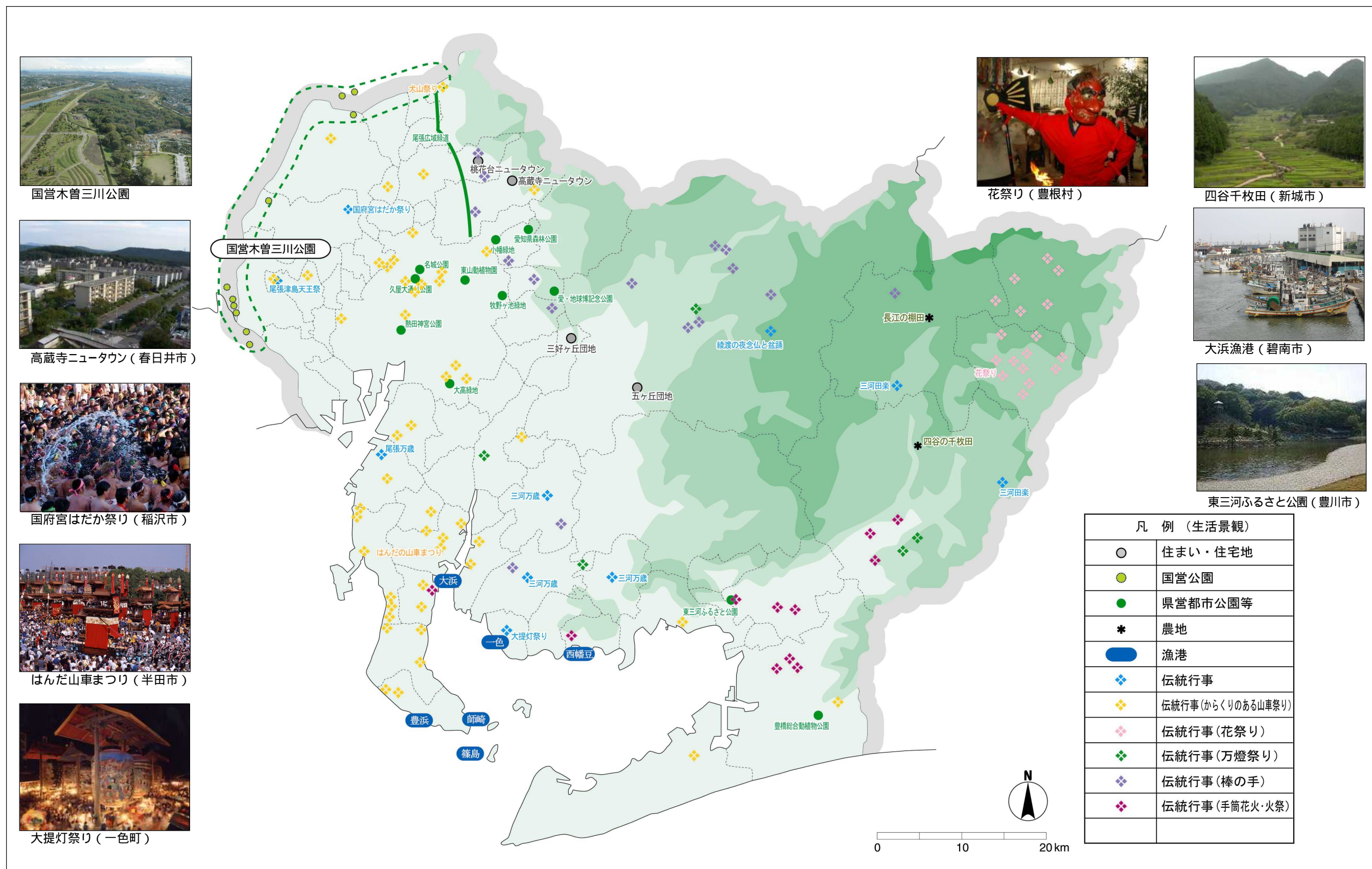
生活景観に関わる広域景観資源について、抽出した結果を以下に示します。



要素	生活景観に関する広域景観資源	
住まい・住宅地	高蔵寺ニュータウン<春日井市>	桃花台ニュータウン<小牧市>
	五ヶ丘団地<豊田市>	三好ヶ丘団地<三好町>
公園・緑地・広場	国営木曽三川公園<愛西市、稲沢市、一色町等>	熱田神宮公園<名古屋市>
	大高緑地<名古屋市>	小幡緑地<名古屋市>
	尾張広域緑道<春日井市、小牧市等>	牧野ヶ池緑地<名古屋市>
	東三河ふるさと公園<豊川市>	愛・地球博記念公園<長久手町>
	愛知県森林公園<名古屋市、尾張旭市>	東山動植物園<名古屋市>
	名城公園<名古屋市>	久屋大通り公園<名古屋市>
	豊橋総合動植物公園<豊橋市>	
	農地・漁港	四谷の千枚田<新城市>
師崎漁港<南知多町>		豊浜漁港<南知多町>
西幡豆漁港<幡豆町>		篠島漁港<南知多町>
一色漁港<一色町>		大浜漁港<碧南市>
伝統行事	犬山祭り<犬山市>	はんだ山車まつり<半田市>
	からくりのある山車祭り(上記の犬山祭り、はんだ山車まつりを含む)	
	花祭り<設楽町、東栄町等>	万燈祭り(刈谷市、新城市、西尾市、豊田市)
	棒の手<豊田市、尾張旭市等>	手筒花火・火祭<豊橋市、豊川市等>
	尾張津島天王祭<津島市>	国府宮はだか祭り<稲沢市>
	大提灯祭り<一色町>	尾張万歳<知多市>
	三河万歳<安城市、西尾市、幸田町>	三河田楽<設楽町、新城市>
	綾渡の夜念仏と盆踊<豊田市>	



【生活景観に関わる広域景観資源の分布】



## (2) 広域景観形成の方向性（生活）

### 広域景観の特性

愛知の生活景観に関わる広域景観資源には、生活の場に近い場所に位置する各種公園や、西三河南部や奥三河等に点在する伝統行事等が多くあげられます。

名古屋市やその近郊には、愛・地球博記念公園や熱田神宮公園等の県営都市公園が位置しており、県民に心の安らぎや憩いの場としての空間を提供しています。また、一戸当たりの住宅規模が比較的大きな本県では、比較的ゆとりのある戸建て住宅地が形成され、また郊外丘陵部には計画的な基盤整備が行われ、良好な住環境を備える大規模なニュータウン等が位置しています。また奥三河等では、四谷千枚田や長江の棚田等の伝統的な農山村集落の景観が、三河湾では美しい漁港の景観が見られます。さらに、伝統行事に関するものとしては、尾張から西三河に伝承されている万歳や、山車からくりで有名な犬山や半田の祭り、奥三河における田楽や花祭り等が、各地域の伝統文化と季節感を感じさせる景観となっています。

### 広域景観資源における特徴

丘陵地等に計画的に形成されたニュータウン等ゆとりのある住宅地  
 漁港や棚田など、農山漁村の暮らしによって育まれた生活景観  
 万歳や山車祭り、田楽や花祭り等、地域の文化を反映した伝統行事

### 取組みの方向性

生活景観に関わる広域景観形成にあたっては、景観として見える部分だけでなく、その背後にある地域住民の暮らしにも着目し、地域の風土や文化を大切にする取組みを進めることが重要です。このため、県営都市公園や住宅地等、人々の生活の場においては、安全、安心、快適なインフラ整備を進めるとともに、愛着と親しみを持って暮らせる魅力ある景観の創出を図ることが大切です。

棚田、漁港等、農山漁村の生活と密着している景観資源については、伝統的な農法等の継承や、地場産品を使った個性あるまちなみづくり等を通じて、身近な文化を守り育みながら、潤いとやすらぎを感じられる景観を保全、創出していくことが大切です。地域の暮らしとともに継承されてきた伝統行事についても、その背景となる文化を含めて守り育てていくことができるよう、担い手となる住民の意見を尊重しながら、保存と継承に努めていくことが望めます。

### 取組みの方向性

愛着と親しみを持って暮らせる緑豊かな住環境の形成  
 農山漁村の暮らしと結びついた棚田や漁港景観の保全  
 地域の生活文化によって守られてきた伝統行事の継承



### 資源を活かす際の留意点

「(1)広域景観資源について」で整理した各資源の主な特徴を以下に記します。

国、県、市町村及び住民・事業者・NPO等は、相互に連携を図りつつ、各々のもつ景観資源の特徴を踏まえて景観づくりを行っていくことが必要です。

なお、生活景観に関わる広域景観資源については、それらの資源が地域固有の暮らしや文化に根ざしていることから、特に地域の担い手である住民等との連携・協働を主軸において、景観形成に取り組むことが必要です。

#### 【生活景観に関わる広域景観資源の主な特徴】

景観資源名	主な特徴
高蔵寺ニュータウン	春日井市東部の丘陵地帯に建設された中京圏で初めてかつ最大のニュータウン。面積 702ha の大規模開発で全国的にも先駆けとなった。中心にショッピング街を持ち、一つの都市ともいえるまとまりのある景観が形成されている。
桃花台ニュータウン	小牧市東部に位置するニュータウンで、東西約 2km、南北約 2km の範囲に広がっている丘陵地を開発してつくられた。面積 322ha。起伏に富んだ地形であり、公園などのオープンスペースが確保され、潤いのある景観が形成されている。
五ヶ丘団地	豊田市の市街地東部に位置する住宅地。丘陵地約 112ha を開発し、周囲を 5 つの丘に囲まれている。地区計画で 1 区画の敷地面積を 200 平方メートル以上とし、ゆったりとした一戸建てが並ぶ。大小の公園が配置され、車歩道にも様々な木々が植えられ、豊かな緑の中で約 2000 世帯、約 1 万人が暮らしている。
三好ヶ丘団地	三好町の市街地北部に位置する住宅地。面積 214ha の規模を有した大規模な団地である。昭和 63 年（1988 年）3 月に、「アートのある暮らし」をテーマに街びらきが行われて以来、町などが運営する彫刻フェスタが、毎年夏の話題になっている。
国営木曽三川公園	木曽川を中心とした木曽三川に国営公園が指定されている。河川を中心とした雄大で伸びやかな景観が見られる。
県営都市公園	12 箇所の県営都市公園が整備されており、まちに潤いと安らぎを与えると共にレクリエーション活動の場や自然との触れ合いの場を提供している。広域的なランドマークとして位置づけられるものも多い。（熱田神宮公園、大高緑地、小幡緑地、尾張広域緑道、牧野ヶ池緑地、東三河ふるさと公園、愛・地球博記念公園等）
愛知県森林公園	名古屋市と尾張旭市にまたがる県営公園。ゴルフ場、野球場、テニスコート、弓道場、乗馬場、芝生広場などの施設のほか、植物園が併設されている。桜の名所としても有名。
東山動植物園	名古屋市千種区にある市営動植物園。昭和 12 年（1937 年）に開園し、当初は「東洋一の動物園」とも呼ばれていた。32 ヘクタールもの広大な園内には、東山植物園・東山スカイタワー、遊園地が併設されている。コアラがいることで全国的にも有名な観光地であり、多くの来訪者で賑わう。
名城公園	名古屋市北区にある、名古屋城の城址公園である。昭和 6 年（1931 年）に開園した面積 76.3ha の公園で野球場、芝生広場、ジョギングコース・サイクリングコースなどがある。名古屋城はこの地域の精神的なシンボルとなっている。また、桜の名所としても有名。
久屋大通り公園	名古屋・栄地区に位置し、北は外堀通から南は若宮大通南までの約 2km にわたる都市公園。中心には名古屋テレビ塔がそびえ、周辺にはオアシス 21、愛知芸術文化センターのほか、大型のデパートも軒を連ね、名古屋及び愛知県の産業、経済、文化、商業の中心地である。
豊橋総合動植物公園	約 40ha の広大な敷地内に、自然史博物館、動物園、植物園、遊園地を備えた総合公園である。850 種類 1400 点の熱帯・亜熱帯植物が生い茂る大温室や、ユニークな「モネコーナー」などの植物園ゾーン、アフリカ園、極地動物館などの動物園ゾーン等があり、子どもから大人まで楽しめる憩いのスポットである。

四谷の千枚田	新城市にある鞍掛山の麓に広がる棚田。約 400 年前には開墾されたといわれる。現在は 7.4 ha に 852 枚の田んぼが 100 段以上連なり、大自然との共生の知恵が生んだ日本農業の原風景として注目されている。
長江の棚田	設楽町に位置する棚田で、石垣と土羽で作られており、3.4ha に 90 枚の長方形の田んぼが整然と並んでいる。
師崎漁港	知多半島の南端に位置し、師崎と片名の 2 地区からなり、外洋にも近いため漁業の歴史は古く、住民の漁業依存度も極めて高い。
豊浜漁港	知多半島南部に位置し、豊浜、中州、小佐の 3 地区からなり、古くから漁業の拠点として栄え、南知多地方の沿岸漁業の中心港となっている。
西幡豆漁港	三河湾北岸のほぼ中央に位置し、鳥羽、西幡豆、寺部の 3 地区からなり、小型底引き網を中心とした沿岸漁業の基地となっている。
篠島漁港	知多半島南端と渥美半島西端から、ほぼ同じ距離に位置し、風光明媚な離島。また、豊かな漁場をひかえ、古くより漁業が盛んであり、伊勢と三河を結ぶ海上駅路として栄えた。離島の独特の景観がみられる。
一色漁港	三河湾北岸の中央に位置し、小型底引き網を主体とした漁船漁業が盛んで、西三河地方の中心漁港となっている。一般の方も、新鮮な魚が入手できる直販施設「さかな広場」が整備されている。
大浜漁港	重要港湾衣浦港の港域内に位置し、古くから漁業や知多への海路の発着港として栄え、寛永年間には三河 5 港の一つに数えられていた。本漁港は大消費地への輸送にも便利な位置にあり、衣浦海底トンネルの開通によって大きな輸送能力の向上につながった。
犬山祭り	毎年 4 月の第 1 週の土曜日、日曜日に開催する祭。寛永 12 年（1635 年）に始まる針綱神社の祭礼で、県の有形民俗文化財に指定されている 3 層の車山が 13 台くり出し、笛、太鼓に合わせカラクリ人形を披露。夜は、各車山に 365 個もの提灯がともされ、満開の桜並木の本町通をぬって練り歩く。国の重要無形民俗文化財に指定されている。
はんだ山車まつり	市内 31 台の山車が、5 年に 1 度集結する勇壮な祭り。31 台の山車が織りなす山車絵巻に半田の町は熱い興奮に包まれる。また毎年開催される「春の山車祭り」は、3 月下旬から 5 月 3 日・4 日にかけて行われる。市内 10 地区で山車祭りが行われ、総勢 31 台の山車が続々と登場。精緻な彫刻や金・銀刺繍幕におおわれた豪華な山車が勇壮に曳きまわされる。からくり人形、獅子舞、三番叟など見所は多く、観客を魅了している。
からくりのある山車祭り	愛知県下にはからくり人形をのせて曳きまわされる山車が 133 輛あり、全国でも最多である。からくりのある山車の始まりは、元和 4 年（1618 年）、尾張初代藩主徳川義直が家康の菩提を弔う為に行った祭礼からとされている。当初は大八車 2 輛を組み合わせ能人形を飾り引き出すところから始まった。その後弁慶と牛若丸の立ち回り、さらにはからくり仕掛けで動く人形となり、他町もこれを真似て全域に広がった。
花祭り	東栄町、豊根村、設楽町で行われている霜月神楽。室町・鎌倉時代に奥三河にもたらされ、稚児たちが愛らしく舞う「花の舞」、巨大な面影の鬼が鉞をかざして舞う「山見鬼」「神鬼」など、さまざまな舞が、夜を徹して行われる。東栄町 11 地区、豊根村 5 地区、設楽町 1 地区の合計 17 地区で行われている。国の重要無形民俗文化財に指定されている。
万燈祭り	刈谷市、新城市、西尾市、豊田市で行われている祭礼。地域によりその目的が多少異なり、刈谷市の万燈祭りは町内安全と火難防除への祈願と感謝を込めて行われ、新城市や西尾市では、長篠の戦いなどでの犠牲者の霊を弔うためのものとされている。いずれもお盆の付近で行われ、夜空の中に浮かび上がる万燈の明かりなどは幻想的である。
棒の手	戦国時代、農民が自衛手段として武芸を身に付けたとされるもので、後に集落の祭りや公の慶祝の日に行い続け、受け継がれてきた。棒の手は、県内で 10 をこえる流派があり、棒や太刀（木太刀）を使う武術的な民俗芸能で、2 人から 4 人の演技者が型に従って対戦する。

手筒花火・火祭	直径約 10 センチ程、長さは 70～80 センチの青竹の節をくりぬき、周囲を麻縄で巻きつけて作った手筒を用いる花火。氏神に奉納する前日に、筒に火薬をたたき詰め、奉納の当日は若衆が脇腹に抱えて点火する。時には、炎が 10 メートルを超えて噴出する勇壮な祭で、東三河地方を代表する伝統的な民俗行事である。
尾張津島天王祭	日本三大川祭りの一つに数えられ、津島神社の祭礼として 500 年の伝統を誇る祭り。7 月の第 4 土曜日とその翌日に開催される。天王川に浮かぶまきわら船の提灯に灯がともされる宵祭と、屋台の上に能人形を飾った 6 艘の車楽船（だんじりぶね）が古楽を奏で進む朝祭を中心とする。「尾張津島天王祭の車楽船行事」が国の重要無形民俗文化財、「尾張津島天王祭の車楽」が県の有形民俗文化財にそれぞれ指定されている。
国府宮はだか祭り	毎年旧暦正月 13 日に開催される祭り。昼間のはだか男達が神男に触れようと揉み合う勇壮な祭が知られているが、これは江戸時代の末頃から始まったもの。本来は、翌日午前 3 時に開催する「夜儼追神事（よなおいしんじ）」が本義である。起源は古く、称徳天皇の勅命により悪疫退散の祈禱が全国各地の国分寺で行なわれた際、尾張国司が総社である当神社において祈願したのに始まると伝えられる。神男に群がる裸男の群れは渦となり手桶集団の掛ける水がたちまちにして湯煙となって立ちのぼる風景は勇壮である。
大提灯祭り	一色町にて、例年 8 月 26・27 日に開催される夏祭り。市内の諏訪神社で開催され、直径約 3.6～5.6m、高さ 5.9～10 メートルの大提灯が 6 組 12 張吊される。海の平穏と豊漁を願って 1564 年頃始まったとされ、奉納する 6 組の提灯が年を経るごとに大きさを競うようになり、今のような大きさになった。県の有形民俗文化財に指定されている。
尾張万歳	知多市に伝わる伝統芸能。祝福芸として古くから法華経万歳と御万歳の演目で諸国を回国していたが、江戸期に、娯楽的な演目を加え、明治期に完成した。はなやかな動きと豊富な演目は、後の寄席芸能の万才にも影響を与えたといわれ、芸能史上重要なものである。国の重要無形民俗文化財に指定されている。
三河万歳	三河地域の安城市、西尾市、幸田町に伝わる伝統芸能。もとは正月の祝福芸だが、現在は季節を問わず慶事の際などにも披露される。国の重要無形民俗文化財に指定されている。
三河田楽	田楽は、稲作の豊作を祈願する神事で、平安時代に始まったといわれる。田楽の起りは、田植などの農耕作業に、笛、太鼓を鳴らし唄い舞い踊ったもので、日本芸能の代表の一つである。新城市の鳳来寺・黒沢、設楽町の田峯の三田楽が国の重要無形民俗文化財に指定されている。
綾渡の夜念仏と盆踊	豊田市足助に伝わる夏祭りで、地域の人々が行列を作って歩きながら、また、所定の場所で立ち止まり行われる、鉦を打ちながら念仏を唱和する夜念仏と、それに続いて行われる三味線や太鼓などの楽器を使わない歌だけによる盆踊。江戸時代から伝承されていると考えられる。国の重要無形民俗文化財に指定されている。

## 4. 「モノづくり」の活力が創り出す『産業景観』づくり

～ 産業により創出される特色ある景観を守り、育みます～

### (1) 広域景観資源について

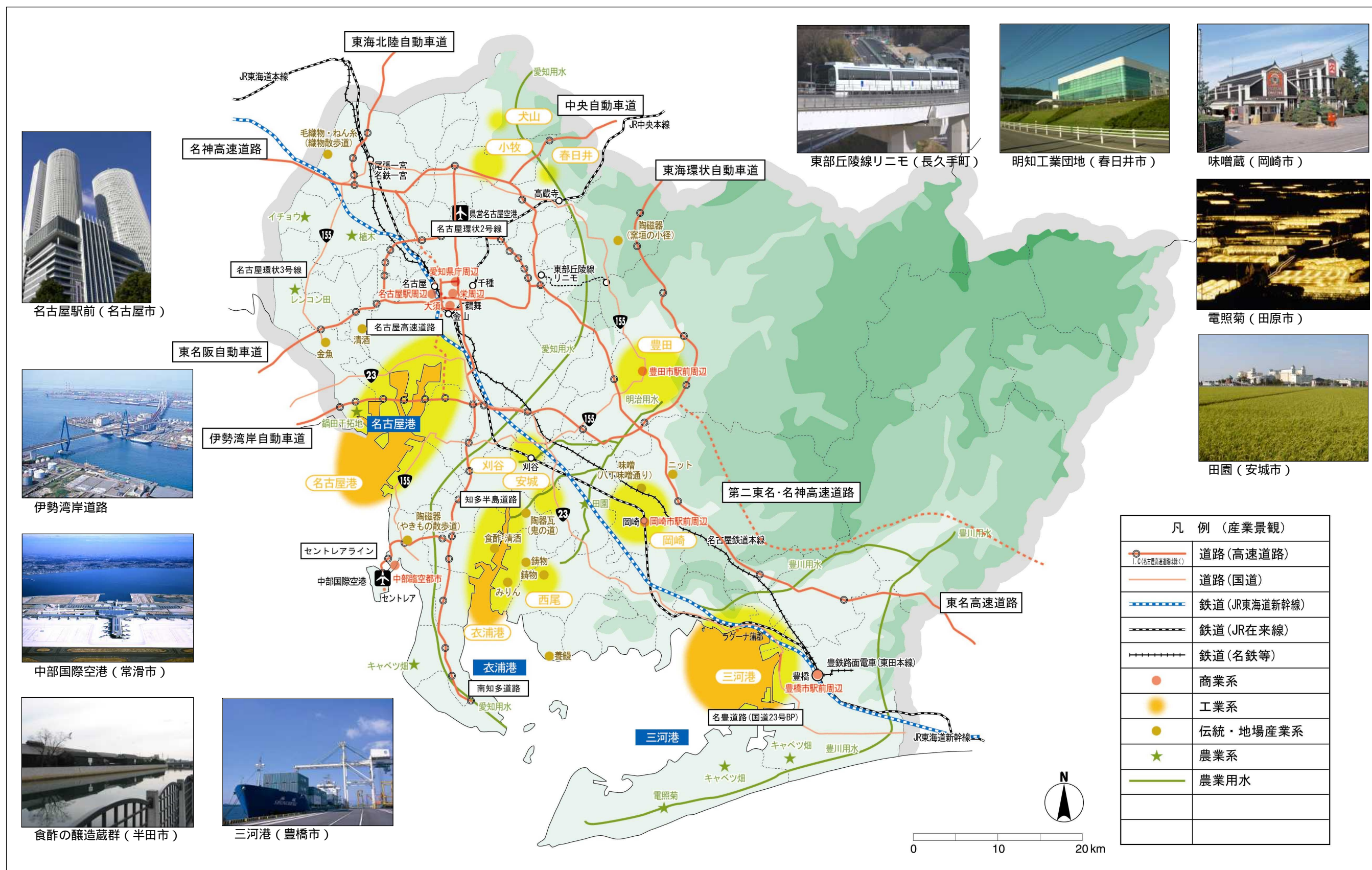
産業景観に関わる広域景観資源について、抽出した結果を以下に示します。



要素	産業景観に関する広域景観資源	
道路・鉄道	高規格幹線道路	知多半島道路・南知多道路・セントレアライン
	名古屋高速道路	国道 23 号（名豊道路）
	国道 155 号（名古屋環状 3 号線）	JR 東海道新幹線
	JR 東海道本線	JR 中央本線
	名古屋鉄道本線	東部丘陵線（リニモ）
	豊橋鉄道路面電車（東田本線）＜豊橋市＞	
駅・港・空港	名古屋駅＜名古屋市＞	尾張一宮駅＜一宮市＞
	高蔵寺駅＜春日井市＞	千種駅＜名古屋市＞
	鶴舞駅＜名古屋市＞	金山駅＜名古屋市＞
	刈谷駅＜刈谷市＞	岡崎駅＜岡崎市＞
	豊橋駅＜豊橋市＞	名古屋港＜名古屋市、東海市等＞
	三河港＜豊橋市、蒲郡市、田原市等＞	衣浦港＜半田市、碧南市、武豊町等＞
	中部国際空港＜常滑市＞	県営名古屋空港＜豊山町＞
商業・事務所系	名古屋市（名古屋駅前（高層建築物群を含む）、栄）	
	豊橋市（駅前周辺）	岡崎市（駅前周辺）
	豊田市（駅前周辺）	中部臨空都市＜常滑市＞
	セントレア＜常滑市＞	大須＜名古屋市＞
	愛知県庁周辺＜名古屋市＞	ラグーナ蒲郡＜蒲郡市＞
工業系	名古屋港周辺の工業地帯	三河港周辺の工業地帯
	衣浦港周辺の工業地帯	内陸工業地帯＜豊田、岡崎、刈谷、安城、西尾、小牧、春日井、犬山＞
伝統・地場産業系	窯業＜瀬戸市、常滑市、高浜市等＞	繊維業＜一宮市、岡崎市等＞
	醸造業＜半田市、岡崎市、碧南市、知多郡、海部郡＞	鋳造業＜碧南市、西尾市＞
	養殖（養鰻）＜一色町＞	養殖（金魚）＜弥富市＞
農業系	農業（電照菊、キャベツ、田圃、レンコン、植木等）	鍋田干拓地＜弥富市＞
	愛知用水	明治用水
	豊川用水	



【産業景観に関わる広域景観資源の分布】



## (2) 広域景観形成の方向性（産業）

### 広域景観の特性

愛知の産業景観に関わる広域景観資源には、陸・海・空の結節点としての役割を担う、東名高速道路等の幹線道路や鉄道等のほか、名古屋市をはじめとした県内主要都市における商業、業務地や、臨海部、内陸部に位置する工業地帯等があげられます。

東名高速道路や第二東名高速道路等の国土軸に加え、名古屋高速道路や国道等の幹線道路は、広域的な交通ネットワークを形成しています。また、中部国際空港（セントレア）は、世界への空の玄関として機能している重要な景観資源となっています。

名古屋港、衣浦港、三河港の国際的な貿易港や、臨海及び内陸の工業地帯は、現在の「モノづくり愛知」を象徴する景観資源であり、規模の大きな建造物、構造物で構成される特徴的な景観を形成しています。また、主要都市における商業地では、近年高層ビル等の建設が盛んであり、賑わいのある景観が形成されつつあります。また、瀬戸や常滑の陶磁器や岡崎の味噌等の地場産業や、キャベツや稲をはじめとする全国でも有数の生産量を誇る農業を支えてきた、愛知・明治・豊川用水等は、愛知県の産業の礎を築いてきた歴史を伝える重要な景観資源として位置づけられます。

### 広域景観資源における特徴

国土軸となる幹線道路などにより形成された交通ネットワーク  
 「モノづくり愛知」を象徴する港湾、工業地帯の景観  
 伝統ある地域の地場産業が育んだ個性的な産業景観

### 取組みの方向性

産業景観に関わる広域景観形成にあたっては、産業景観資源を、新しい活力の源となり「モノづくり愛知」にふさわしい魅力的な景観を生み出すものとして捉えることが重要です。このため、国土軸の一翼を担う道路や鉄道等の社会基盤等の整備では、巨大な構造物が周囲の景観にもたらす影響を充分配慮した外観、デザインとなるよう留意を促すとともに、ドライバーや乗客の視点に立ち、周辺地域においても良好な景観形成を図ることが大切です。また、風力発電施設等、時代の要請により増えつつある大型の施設の設置や、賑わいを演出したり、周囲から際立つ存在になることを意図したライトアップについては、周囲の景観や環境との調和に配慮することが望まれます。

商業・事務所ビルが集まる地域においては、大規模な建築物等を建築しようとする際は周囲の景観との調和を促し、また屋外広告物の整序や民有空間における緑の創出等を促して、都市にふさわしい品格と賑わいの感じられる景観を形成していくことが必要です。また、港湾や工場が多数集まる地域等においては、周囲の景観への圧迫感を軽減する施設計画や敷地内の積極的な緑化等を促し、将来にわたって愛される魅力ある景観を形成していくことが必要です。一方、伝統・地場産業に関わる景観資源に

関しては、近代化遺産としての位置づけも念頭に置くなど、歴史的な重要性を再認識するとともに、観光資源としての視点も含め、保全や活用を進めるものとします。さらに、電照菊やキャベツ等は、広大な面積や温室等の特別な施設を用いて栽培され特徴的な景観を呈していることから、地域の特色として大切に保全していくものとします。

産業に関わる広域景観資源は県土の骨格として、また県及び地域の「顔」としての役割を担うものも多いことから、その景観形成は、関係する自治体の積極的な取り組みと、また自治体と事業者等との連携・協働を通じながら、広域的な観点から取り組むことが必要です。

#### 取り組みの方向性

社会基盤への景観配慮とその周辺での屋外広告物の整序  
 「モノづくり愛知」の活力を映し出す港湾、工場景観の創出  
 伝統・地場産業に関わる景観の再認識と観光への活用

#### 資源を活かす際の留意点

「(1)広域景観資源について」で整理した各資源の一般的な特徴を以下に記します。

国、県、市町村及び住民・事業者・NPO等は、相互に連携を図りつつ、各々のもつ景観資源の特徴を踏まえて景観づくりを行っていくことが必要です。

なお、産業景観に関わる広域景観資源については、複数の市町村にまたがって県土の骨格をなすものが多いこと、また観光資源として利用可能なものがあることなどに留意しながら、景観形成に取り組むことが必要です。

#### 【産業景観に関わる広域景観資源の主な特徴】

景観資源名	主な特徴
高規格幹線道路	県内交通の骨格的な役割も担うとともに、県外からの来訪者のアプローチとなる道路。名古屋高速道路と一体となり、ネットワークを形成している。高架構造の箇所も多く、車窓から各地域の景観を望むポイントもある。名港トリトンや刈谷ハイウェイオアシスなど、ランドマーク的な構造物も整備されている。(東名・名神高速道路、第二東名・名神高速道路(伊勢湾岸自動車道)、中央自動車道、東海北陸自動車道、名古屋環状2号線、東海環状自動車道、東名阪自動車道)
知多半島道路 南知多道路 セントレアライン	延長20.9kmの知多半島道路と延長19.6kmの南知多道路は、知多半島の中央の丘陵地を縦断する自動車専用道であり、セントレアからの主要なアプローチとして利用される道路である。
名古屋高速道路	名古屋市とその周辺の地域に路線網を有する有料自動車専用道路。名古屋市中心部のビル群など都市的な景観が見える。
国道23号 (名豊道路)	豊明市から豊橋市を結ぶ地域高規格道路であり、県東部の広域交通を担う。刈谷市内などは高架構造が中心で周囲の景観が見渡せる。
国道155号 (名古屋環状3号線)	名古屋市の外側で環状線を形成している一般国道。県内19市町を通過している。各都市の市街地近傍を通過している部分も多く、都市間を結び、生活・産業を支える重要な路線として位置づけられている。



鉄道	県内各都市へのアプローチとして、あるいはあるいは都市内移動の重要な役割を担う鉄道は、県内交通の骨格を形成している。また車窓からの風景は、それぞれの地域特性を強く印象付けるものとなっている。(JR 東海道新幹線、JR 東海道本線、JR 中央本線、名古屋鉄道本線、東部丘陵線リニモ、豊橋鉄道路面電車(東田本線))
鉄道駅	鉄道駅は都市の玄関口としての役割を担い、第一印象を形成する上でも駅前の景観は重要である。(名古屋、尾張一宮、高蔵寺、千種、鶴舞、金山、刈谷、岡崎、豊橋)
名古屋港	名古屋市、東海市、知多市、弥富市、飛鳥村にまたがる海港で、国指定の特定重要港湾。自動車関連の輸出が半数以上を占める貿易港で、輸出入総額国内第1位。日本三大貿易港の一つに数えられる。ガーデンふ頭には名古屋港水族館や名古屋港イタリア村などの観光・娯楽スポットがある。
三河港	三河湾に面した豊橋市、田原市、蒲郡市、御津町にまたがる海港で国指定の重要港湾。国内外の多くの自動車メーカーが基幹港とし、自動車の輸出入に関して屈指の港である。ラグーナ蒲郡など、リゾート施設も充実している。
衣浦港	三河湾西部に面した碧南市、半田市、高浜市、武豊町にまたがる海港で国指定の重要港湾。西三河および知多地域の物流の拠点港である。古くから栄えた港で、明治期には、名古屋港よりも武豊港の方が大型船舶の寄港に有利であったため、武豊線が東海道本線に先んじて建設された。
中部国際空港	常滑市沖の伊勢湾海上にある国際空港。全国から県内へのゲートウェイとして重要性が高まっている。また、空港以外の商業施設としての機能も充実させ、観光地としての賑わいも見せている。
県営名古屋空港	小牧市、春日井市、豊山町、名古屋市北区の3市1町にまたがる空港。平成17年(2005年)2月17日に中部国際空港の開港に伴い、通勤航空やビジネス機など小型航空機の拠点となる県営の空港として生まれ変わった。
商業・業務地	名古屋市の名駅周辺及び栄地区は、高層ビルやデパートなどが集積し、中部圏の中心都市としての景観を見せている。また、中核市である豊橋市や岡崎市、豊田市においても、駅前などの中心市街地において、商業・業務の集積による活力ある景観が見られる。(名古屋(名駅、栄)、豊橋、岡崎、豊田、中部臨空都市、セントレア、大須)
愛知県庁周辺	愛知県庁本庁舎は、昭和13年(1938年)に建設された帝冠様式の外観を持つ貴重な建造物で、隣接する名古屋市役所本庁舎とともに国の登録有形文化財に指定されている。また、この周辺は、国や県、市の機関の建造物が一団地に集まる官庁街で、歩道に植えられたケヤキの並木が季節の移り変わりを彩り、独特の景観を形成している。
ラグーナ蒲郡	蒲郡市に位置する、臨海に分譲住宅地にショッピングモール、テーマパーク、ヨットハーバーなどがアレンジされた新しい臨海再開発のプロジェクトで、海をテーマとしたテーマパーク、ラグナシアがその中核にある。
名古屋港周辺の工業地帯	特定重要港湾である名古屋港の周辺の名古屋市、東海市、知多市、弥富市、飛鳥村に広がる工業地帯。木材、鋼材、燃料、製鉄、自動車、運輸などの産業が集積している。
三河港周辺の工業地帯	重要港湾である三河港の周辺の豊橋市、田原市、御津町に広がる工業地帯で、造船、金属、機械、自動車、電気、精密機械、化学繊維などの産業が集積している。
衣浦港周辺の工業地帯	重要港湾である衣浦港の周辺の碧南市、半田市、刈谷市、高浜市、武豊町、東浦町に広がる工業地帯。鉄鋼、機械、自動車部品、車両、化学、窯業、金属などの産業が集積している。
内陸の工業地帯	豊田市、岡崎市、刈谷市、安城市、西尾市周辺は、輸送機器産業を軸に一大内陸工業地帯を形成しており、近年における発展が著しい愛知県の産業集積を代表するエリアである。また、小牧市、春日井市、犬山市周辺は、内陸工業地帯として、機械・電気機器等の高い集積がみられる。
窯業	窯業は古くからの愛知の主要産業であり、瀬戸や常滑は陶磁器の産地、高浜は三州瓦の産地として栄え、現在、瀬戸市の「窯垣の小径」や高浜市の「鬼の道」など、陶磁器などの素材を活かしたまちづくりが行われている。また瀬戸の陶土採掘場はグランドキャニオンと呼ばれ、特徴ある景観を呈している。

繊維業	一宮市や岡崎市は昔から繊維業が盛んで数多くの工場があり、明治～戦後にかけては全国有数の産地であった。現在では、繊維業全体の衰退の影響を受けているが、工場の建物などは現在までその姿を留めているものも多い。
醸造業	半田市、岡崎市の食酢、知多郡や海部郡の清酒、岡崎市の味噌、碧南市のみりんなど、愛知県は古くから醸造業で栄えた地域であり、これらの地域では、現在も生産が盛んである。また、蔵などを活用したまちづくりなども行われている。
鋳造業	鋳物業は、古い歴史を持つ産業で、現在は碧南市を代表に盛んに生産されるようになっている。特に、太平洋戦争後は、自動車や機械産業等の飛躍的な発展に支えられ、大きく進展し、鋳造のための工場が各地で見られる。
養殖（ウナギ）	一色町のウナギの生産高量は、昭和 58 年以降連続の全国一であり、海岸付近一帯は、ビニールハウスの養鰻場が特徴的な景観を生み出している。
養殖（金魚）	弥富市は、全国有数の金魚の生産量を誇っており、金魚の養殖が盛ん。市内の各所に養殖池があり、特徴的な景観となっている。
農業	農業も盛んな愛知県では、各地においてその地域特性に合った作物が栽培され、地域の個性を生み出しているとともに、季節感を感じさせる景観を見せている。（電照菊（田原市）、キャベツ畑（田原市、豊橋市、美浜町）、田園（安城市）、レンコン（愛西市）、植木（稲沢市）、銀杏（稲沢市））
鍋田干拓地	天保 6 年（1835 年）鍋田干拓のもとになる八穂新田が完成したが、度重なる風水害で亡所となった。戦後、食糧増産を目的に再び入植が行われたが、伊勢湾台風の直撃で甚大な被害を受けた。その後、伊勢湾台風を教訓に復興が行われ、現在は早場米の産地となっている。なお、現在は野鳥の飛来地として有名で、バードウォッチングのメッカとなっている。
愛知用水 (愛知池、佐布里池等)	木曽川から取水し、尾張東部から知多半島にかけての一帯に、農業用、工業用、上水用の水を供給する用水として昭和 36 年（1961 年）に開かれた。ため池に頼っていた尾張東部や知多半島の農業、また井戸に頼っていた地域住民の日常生活を著しく向上させた。また、工業用水としてこの地域の産業の発展に大きく貢献した。
明治用水	矢作川から取水し、安城市を中心に、岡崎市、豊田市、知立市、刈谷市、高浜市、碧南市、西尾市の 8 市にまたがる地域に、農業用と工業用の用水として開かれたもので、明治 18 年（1885 年）までにほぼ現在の姿となった。明治用水の計画は江戸時代に始まる。碧海郡和泉村(現在の安城市和泉町)の豪農都築弥厚(つづきやこう)の碧海台地に矢作川の水を引き開墾を行うという計画が始まりである。
豊川用水	豊川から取水し、愛知県東南部の平野及び渥美半島などに、農業用、工業用、上水用の水を供給する用水として昭和 43 年（1968 年）に開かれた。渥美郡高松村(現在の田原市高松町)の政治家近藤寿市郎が、大正 10 年（1921 年）、奥三河の宇連川に大貯水池を築き渥美半島などを潤す灌漑水路建設の計画を出したが、昭和 2 年（1927 年）の全国的な金融恐慌や昭和 12 年（1937 年）の日中戦争の影響で戦前には実現しなかった。戦後、昭和 24 年（1949 年）に着工し、20 年の歳月をかけて完成した。

自然、歴史、生活、産業に関わる広域景観資源の分布の総括図  
 以下に、自然、歴史、生活、産業に関わる広域景観資源の分布を示します。

